

1. 科目名 (単位数)	造形芸術Ⅱ (2単位)		3. 科目番号	SJMP2321								
2. 授業担当教員	井戸川 敦											
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・他科目との関係	造形芸術Ⅰの単位を修得した後に履修することが望ましい。											
7. 講義概要	造形芸術Ⅰにおける「みる、かぐ、あじわう、きく、ふれる」という人間の本来持っている五感を活用して、感じ、感じ取り、「扱う素材・材料の特性」を最大限に活かしながら表現し、伝える体験を更に深めていきます。また「上手い、下手」という一つの見方や価値観に捉われることなく、誰もが出来る、誰もが楽しめる造形プログラムに取り組みながら「美術」が本来持つ素晴らしさ、楽しさを実感してもらうことを目的とします。											
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 五感で感じ取り表現する体験をとおして独自の表現の力を養う。 3. 素材の特性を活かした造形表現能力を養う。 4. 感性と表現、五感と素材表現、プレゼンテーション、コミュニケーション能力を養う。 											
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> i. 毎時の授業において制作する作品を提出課題とする。 ii. 制作・鑑賞に関わるレポートの作成と発表を行う。 iii. 鑑賞として、授業における取り組みの成果の発表を行う時間を設ける。 以上、詳細についてはオリエンテーションの際に説明する。											
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 日本造形教育研究会編集『美術 表現と鑑賞 -想いを形に-』開隆堂出版 また、適宜資料を配布します。作品制作のための道具、材料は事前に指示するので各自で用意すること。											
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 造形活動にどのように向き合い取り組んだかという点を評価する。 2. 作品への取り組み方による評価を行う。 ○評定の方法 授業への取り組み、制作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>1. 授業への積極的参加</td> <td style="text-align: right;">総合点の 20%</td> </tr> <tr> <td>2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み</td> <td style="text-align: right;">総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>3. 制作や鑑賞活動の成果 (ポートフォリオ等)</td> <td style="text-align: right;">総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>4. 課題 (作品発表、レポート等)</td> <td style="text-align: right;">総合点の 20%</td> </tr> </table>				1. 授業への積極的参加	総合点の 20%	2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み	総合点の 30%	3. 制作や鑑賞活動の成果 (ポートフォリオ等)	総合点の 30%	4. 課題 (作品発表、レポート等)	総合点の 20%
1. 授業への積極的参加	総合点の 20%											
2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み	総合点の 30%											
3. 制作や鑑賞活動の成果 (ポートフォリオ等)	総合点の 30%											
4. 課題 (作品発表、レポート等)	総合点の 20%											
12. 受講生へのメッセージ	「造形表現Ⅱ」では、造形芸術Ⅰで培った経験をもとに、積極的に学生一人一人の【自分の表現】を探ります。“失敗しても構わない”ので、自分の興味関心を大切に自ら考え工夫し、自分を感じ深く考え、自分に真正面から対峙し、そして自分を見つめます。カリキュラムの終盤からは自由制作とし、大作の制作に挑戦し、簡単ですが展示 (作業) を行います。											
13. オフィスアワー	授業前後の空き時間等 (メールなどで事前にご連絡ください)											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容		学習課題									
第1回	◇ オリエンテーション 授業に関する諸注意 造形表現の構造・発想について		事前学習	教科書『美術 表現と鑑賞 -想いを形に-』に目を通す。過去の作品制作体験を振り返り、その経験をスケッチブックに絵や文章等で自由に表現する。								
			事後学習	内容のまとめ、図画工作でやってみたいことのイメージをふくらませアイデアや表現をスケッチブックに描く。								
第2回	◇ 表現の基礎 素材の特徴と組み合わせについて (講義+演習)		事前学習	美術・芸術作品に親しむ為、メディアを通じた美術鑑賞を行う。								
			事後学習	過去の作品制作体験を振り返り、その経験をスケッチブックに絵や文章等で自由に表現する。								
第3回	◇ 木炭画の制作Ⅰ 「想定作品の制作」 (講義+演習)		事前学習	教科書 pp. 46-47 を読む。 好きなもの・興味のあるものの特徴を観察し、スケッチブックに描く (書くのではなく描く)。								
			事後学習	木炭と木炭紙を使用し、自分の内面をよく感じて描く。								
第4回	◇ 木炭画の制作Ⅱ 「想定作品の制作」 (演習)		事前学習	教科書 pp. 48-49 を読む。 次回のカリキュラムのために、立体表現の理解を深めることを目的として、web や画集などを使用して調べる。								
			事後学習	木炭と木炭紙を使用し、自分の内面をよく観察して描く。								
第5回	◇ 立体作品制作Ⅰ 「ダンボール造形」		事前学習	教科書 pp. 90-91 を読む。 ダンボール素材に触れ、その触感や質感を感じてみる。								

	(講義+演習)	事後学習	ダンボールの性質を活かした立体構成について研究する。
第6回	◇ 立体作品制作 II 「ダンボール造形」 (演習)	事前学習	教科書 pp. 64-65 を読む。 ダンボール作品に対して、どのように色付けしていくか構想する。
		事後学習	様々な素材の性質を考え、web など で新たな表現方法を模索する。
第7回	◇ フォトグラム -暗室作業の体験- (講義+演習)	事前学習	教科書 pp. 98-99 を読む。 様々な写真表現について、web や画集などを使用して調べる。
		事後学習	好奇心を持って、web や画集などを使用し様々な写真作品を鑑賞する。
第8回	◇ スクラッチ絵画 I -細密をともなう表現- 「自分のテーマで」 (講義+演習)	事前学習	教科書 pp. 72-73 を読む。 色々なところにアンテナを張り、テーマとなりそうな事柄に目をむける。
		事後学習	今回の技法と表現について理解する。表現の可能性について試行錯誤し探求する。
第9回	◇ スクラッチ絵画 II -細密をともなう表現- 「自分のテーマで」 (演習)	事前学習	教科書 pp. 148-149 を読む。 Web などを使用し、好きな作家の、作品に対する考え方に触れる。
		事後学習	Web などを使用し、好きな作家の作品遍歴を鑑賞し、なぜそのように変化していったのかを考える。
第10回	◇ 自分の表現 I 作品の構想を練る (素材やサイズなど) (演習)	事前学習	教科書 pp. 150-151 を読む。 美術館・ギャラリー等の見学により、実作品の鑑賞を行う。
		事後学習	エスキース (下描き) を制作する。
第11回	◇ 自分の表現 II エスキース (下描き) (演習)	事前学習	教科書 pp. 152-153 を読む。 引き続き、美術館・ギャラリー等の見学により実作品の鑑賞を行う。
		事後学習	翌週から制作する、自分の作品のための準備 (用具や道具など) をはじめ、構想を練る。
第12回	◇ 自分の表現 III 作品の制作-1 (演習)	事前学習	教科書 pp. 20-21 を読む。 引き続き、美術館・ギャラリー等の見学により実作品の鑑賞を行う。
		事後学習	今回の、自分の作品の内容 (コンセプトやメッセージ、また訴えたいことなど) を文章化する。
第13回	◇ 自分の表現 IV 作品の制作-2 (演習)	事前学習	引き続き、美術館・ギャラリー等の見学により実作品の鑑賞を行う。
		事後学習	作品制作のための素材や資料などを、web などを利用し収集する。そして同時に、小さな支持体で、好奇心に任せて実験を繰り返す。
第14回	◇ 自分の表現 V 作品の制作-3 (演習)	事前学習	引き続き、美術館・ギャラリー等の見学により実作品の鑑賞を行う。 作品制作のための素材や資料などを、web などを利用し収集する。そして同時に、小さな支持体で、好奇心に任せて実験を繰り返す。
		事後学習	引き続き、美術館・ギャラリー等の見学により実作品の鑑賞を行う。
第15回	◇ 自分の表現 VI 作品の展示、鑑賞、講評 (講義+演習)	事前学習	教科書 pp. 22-23 を読む。 他者 (他の受講生) の制作を、興味・関心を持って見てみる。そして、その内容 (発言やコンセプトなど) を尋ねてみる。 他者 (他の受講生) の作品と自分の作品とを比較し、自身の独自性を客観的に把握するよう努める。もし機会があれば、どこかの会場で展示してみるのも良い経験となる。